

東日本大震災の復興事業として太平洋セメント及び当社が協力した大島工場の閉鎖記事が、4月11日付け コンクリート新聞に掲載されました。

役割終え 3 工場閉鎖

宮城・気仙沼復興需要終息など

気仙沼生コンクリート、公設民営の復興プロジェクト協同組合（気仙沼市、ラント2基（本吉、戸高野剛理事長）は4日、倉）が先月末に操業を気仙沼大島に設置していた大島工場を閉鎖した。7日に気仙沼市街地と大島を結ぶ気仙沼大島大橋が開通したことに伴うもの。5日に大島で工場の設置や操業に尽力した関係者らを集めた「大島工場感謝の集い」を開き、80人が参加した。

同協組エリアでは、復興需要が終息に向かっていることを受け、数量が限られ、震災後の旺盛な需要に対応することができなかった。そこで2013年4月に協組が太平洋セメント、小野田ケミコの協力を得て、現地プラントを設置し、6年間操業した。

感謝の集いで、高野理事長は震災発生直後に骨材やコンクリート、ミキサ車が不足し、被災地の早期復興で必要不可欠な生コンが生産、出荷できない状況に陥ったことや、太平洋セメントと小野田ケミコの両社から「復興に貢献したい」との申し出を受けて、大島工場を開設した経緯を説明。また、大島の復興需要の契約残約3万m³については「気仙沼大島大橋を使い、協組員工場が責任を持って安定供給していく」と述べた。

来賓の菅原茂気仙沼市長は、7日に開通した気仙沼大島大橋や、20年に開通する予定の気仙沼湾横断橋によって大島の復興、利便性が大きく向上することを説明し、関係者に対して「復興工事が一段落した際には、自らが構築した施設を見学し

に来てほしい」と述べた。

コンクリート新聞（4月11日）より

問い合わせ先：小野田ケミコ株式会社 技術営業本部 営業統括部

TEL:03-6386-7035 FAX:03-6386-7022

以上